

**平成21年 第2回 国東市議会定例会
一 般 質 問 通 告 書**

質問日	質問順序	質問者 (議席番号)	質問事項	質問の要旨・質問内容の説明
6 月 1 8 日 (木)	1	宮永 英次 (13番)	1 市政について	各部局で現在取り組んでいる、あるいは取り組もうとしている重点課題は何か。 今年度、「市政懇談会」の実施予定は。
			2 教育問題について	小学校統合問題にかかる地元説明会の実施予定は。
	2	白石 徳明 (1番)	1 福祉行政について	乳幼児医療費助成制度は県下の自治体にばらつきがあり、中でも国東市の水準は低い。制度の充実を求める。 妊婦健診の完全無料化を姫島村が始めた。国東市でも実施すべきではないか。 コミュニティバスが利用者に喜ばれる一方、路線バスの運行は従来のみである。また、周辺地域ほど高齢化が進み、運転免許証の所有率は低くなっている。老人が外出するためにも、バスの利用券等を発行してはどうか。
			2 ゴミ行政について	宇佐市、豊後高田市、国東市による広域でのゴミ焼却場建設計画は進展がみられないのか。独自の計画へ早期に移行すべきではないか。 ゴミの分別化により資源としてリサイクル率は増えるが、国東市では、その計画が進んでいないのではないかと。 指定ゴミ袋の料金値下げを求める市民の声があるが。
			3 農業政策について	オリーブ栽培を取り組み始めたが、どのくらいの規模に達しているのか。 今年度収穫できる人もいると聞かすが、どう対応しているか。 オリーブオイルの精製に向けた取り組みはどこまでできているか。 市の花である「菜の花」から菜種油を精製することはできないか。 また、地域で取り組む行政区やグループに、代金を還元することはできないか。
	3	綾部 敦 (10番)	1 限界集落について	高齢化社会が進み、過疎の地区は若者の定住が年々減少の傾向に向かっている。さらに、壮年層も老年へと移り変わっていくにつれて限界的な集落は増加していくと思われるが、行政はこのような地域をどのように支えていくか、その政策はあるか。
			2 古法に学ぶ経済理論の認識を	地方経済の基本とも言うべき「価源」という蔵書が、国東市梅園資料館にある。国東市民全体の意識が変わることにより、消費や生産、販売の流れが変わってくる。所管部局はその啓発を行うために、そうした知識を取り入れたらどうか。
			3 公共用地の買収にかかる立ち木の補償について	山間部の道路拡幅工事にあたり用地が買収されるが、それにともない立ち木の補償がされている。立ち木の樹齢などによって不利益を被り、補償費の意義が失われるケースがある。運用の幅を広げることも必要ではないか。
	4	丸小野 宣康 (22番)	1 経済危機対策について	地域活性化・公共投資臨時交付金に対する市の取り組み状況はどうなっているか。 地域活性化・経済危機対策臨時交付金に対する市の取り組み状況について、地球温暖化対策、安全・安心の実現、少子高齢化社会への対応はどうなっているか。

**平成21年 第2回 国東市議会定例会
一 般 質 問 通 告 書**

質問 日	質問 順序	質問者 (議席番号)	質 問 事 項	質問の要旨・質問内容の説明
6 月 1 8 日 (木)	5	木田 憲治 (14番)	1 周辺部活性化対策について	<p>小規模集落支援制度について、集落支援員は何をするのか。 また、支援員に市職員2～3人でプロジェクトチームを作って活動してはどうか。</p> <p>出張所の縮小、学校の統合により、地域はますます過疎になると危惧するが、小中学校の跡地利用によい方策はないか。</p> <p>国東市にも交付される国の経済危機対策費について、その対応策として、周辺部活性化に使えないか。</p> <p>10年に1度の天台宗「峰入り行」が平成22年3月に予定されている。国東観光を売り出す好機と思うが、市として対応策はないか。</p>

平成21年 第2回 国東市議会定例会
一 般 質 問 通 告 書

質問日	質問順序	質問者 (議席番号)	質問事項	質問の要旨・質問内容の説明
6月19日(金)	1	野田 忠治 (9番)	1 消防署本署及び出張所の統廃合と、耐震について	消防本署及び出張所は建築基準法の改正前の建物であり、その危険性は高い。出張所の統廃合について、今後の見通しはどうか。統廃合の計画がない出張所は耐震補強、または他の市有施設への移転をしてはどうか。
			2 分庁制の導入、及び議会の安岐総合支所への移転について	本庁機能を充実させるため本庁は飽和状態となり、各総合支所は空きスペースができています。議会を旧安岐町の議場へ移転する方法により、本庁にもスペースができる。分庁制の導入についてどう考えるか。
	2	唯有 幸明 (2番)	1 墓地問題について	違法に建造される墓石への市としての対応は。
			2 常備消防について	現在の定員数で業務は適正に行われているか。出張所の統合はどうなっているか。円滑な消防業務の遂行のため、退職者を再雇用する考えは。
			3 少子化対策の一環としての子育て支援策について	子育て支援策として乳幼児医療費の助成等がなされているが、国東市として特色ある思い切った支援策はできないか。
	3	清國 仁士 (24番)	1 行政改革について	これまでの経過及び効果と今後の予測は。改革には痛みを伴う。それに対しサポートが必要であるがどうなっているか。大分県は「安心・活力・発展」を掲げているが、本市の特徴は。全市民の協働のエネルギーが必要である。グループ活動の推進と各々の連携、また研修等の考えは。小グループにもバスの運行を実施してはどうか。
			2 交流人口について	本市の豊富な文化財、由緒ある場所等を利用した研修は考えられないか。本市は豊かな自然や神社・寺院が多くある。観光客の推移は。各イベントの効果はどうか。グリーン・ツーリズムの拡充に力を入れたらどうか。また、現状は。ボランティアガイドの要請、稼動頻度の状況はどうなっているか。「いにしへの宝を未来につなぐ」方法は。
	4	安見 蔚 (12番)	1 災害防止対策について (主として風水害対策)	本市には地域防災計画書が策定されているが、このような計画書は他市も策定しているのか。広域災害に対処する時は、情報は共有できるか。計画書の策定にはコンサル会社が介入しているか。災害予防対策はどのようなことがなされているか。合併後の防災パトロールにおいてのランク別の危険箇所数は。そのうち防災工事が完了しているのは何箇所か。未整備箇所の対策は。災害発生時には、指揮命令系統情報、交通が錯綜することが予想されるが、適切に対処するための方策は。危険箇所の高齢者を把握しているか。